

リデュース
ヨコハマ R 委員会への提案

(提案者自らが新たな取組を実施していくことを前提とした提案)

テーマ	マイボックスの普及促進（食品用包装容器廃棄物の削減）		No.	23-A3
提案者	マイボックス普及企業組合	提案日	平成23年10月12日	
		検討会議	平成23年10月19日	
<p>【概要】</p> <p>繰り返し洗って使え、折りたたんで携帯できる食品用の箱である「マイボックス」を活用し、家庭から捨てられる「包装容器廃棄物」を、削減する。</p>				
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の9月から、客が持参したマイボックスを利用可能なお店（協賛店）の募集を開始し、約30店舗が登録。 ・ 今後、マイボックスを全国に普及していくにあたり、横浜市内における協賛店募集活動を支援してほしい。 ・ ケーキの箱が1回使っただけで捨てられてしまうのがもったいないとの発想から、ドギーバッグの改良版として開発した。菓子用と惣菜用との2種類がある。 ・ 開発・製造は事務用品の(株)キングジム。包装資材関連企業8社から発売予定。 ・ ケーキの箱は20円～30円と高いため、お店にとっては経費削減にもつながり、マイボックスを利用するお客様にポイント等で特典を付けやすい。 ・ 利用客は、家庭から出る廃棄物を減らすことが出来ると同時に、ポイント等の特典を楽しみながらエコ活動が続けられる。 				
<p>【3Rのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケーキの箱、トレー等食品用包装容器廃棄物の削減。 				
<p>【検討会議での主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品用包装容器廃棄物を減らしていく必要性は高いが、繰り返し使える折りたたみ容器に求められる機能的ニーズは高く、それらを満たす製品づくりは難しい。 ・ ボックスの大きさに合う量を、繰り返し購入していく方が多いお店では、利用が広がる可能性がある。今後、市内でそのような事例が出れば、新たな取組として取り上げられる。 ・ Aタイプ（菓子用）は、ケーキを取り出しやすいよう、前面が開けられる仕様の方がよいのではないかと。また、少しサイズが小さいのではないかと。 ・ Bタイプ（惣菜用）は、汁もれは防げるものの、角の部分が洗にくいという難点がある。 				
<p>【結論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヨコハマRひろばパートナー、ヨコハマRひろば応援マーク制度の活用と併せ、ヨコハマRひろばウェブサイトやメールマガジンによって協賛店募集のPRを行う。 ・ 市内にマイボックスを有効に活用する協賛店が出てきたら、新たな取組としてウェブサイト等においてご紹介していきたい。 				

ヨコハマ ^{リデュース} R 委員会への提案

(提案者自らが新たな取組を実施していくことを前提とした提案)

テーマ	古着のリメイクによるリユース		No.	23-A4
提案者	神奈川区在住	提案日	平成23年10月13日	
		検討会議	平成23年10月19日	
<p>【概要】</p> <p>衣料・古布を回収してリメイクを施して販売したり、効率的にリユースやリサイクルを行っていくことで、繊維資源の循環を図りたい。</p>				
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜ローカルメイドの環境循環型「グリーンファッション」製品のベンチャーブランドを立ち上げようと準備中。 ・ リサイクルポスト（回収ボックス）を街なかに設置し、回収した衣類の一部は、クリエイターとの協働でリメイク製品を製作して販売。さらに余った衣料・古布は服飾系学校へ寄付し、その他最終的には市内リサイクル工場にて処分予定。 ・ リサイクルボックス設置という回収方法に関するアイデアや、協力を得られるリサイクル工場の紹介などの支援をしてほしい。 ・ リサイクルポストは、はじめは使いやすく質の良い衣料品の集まりやすいところとして民間の小売店舗（衣料専門店、セレクトショップ）への設置を考えているが、将来的には店舗数の多い小売店舗（スーパー、一部コンビニエンスストア）などへの設置をしていきたい。 ・ リメイク製品の制作については、衣料品のデザイナーを中心に、現在はコアメンバー3~4名程度で準備中。（提案者もデザイナーとして参加） ・ 活動の意図を直接伝えていくために、リメイク製品は、販売店ではなくWEBストアにて販売予定。 				
<p>【3Rのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リメイクによって、リユースされる古着の量を増やす。 ・ 「限りある資源・環境でファッションをいかに楽しんでもらうか」をプロジェクトのテーマとし、3Rの実践を通じて資源の循環を図る。 				
<p>【検討会議での主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案自体はいいと思うが、独自に古着を回収するという手法は、事業採算的に難しいのではないか。 ・ 市内には、横浜市が回収した古着を細かく選別し、状態のいいものをリユースに回している業者もある。それらの古着の中から買い取りを行う方が現実的と思われる。 				
<p>【結論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自の回収は困難と思われるため、業者からの買い取りを提案する ・ 横浜市リサイクル事業協同組合を通じて、繊維リサイクル業者をご紹介する。 				